

創価大学

[SOKA UNIVERSITY]

対話を重ねながら 先輩が後輩を支援する ピアサポートによって キャリア意識を醸成



1年生のキャリアデザインを一緒に考えて考えるCSS(右)

2021年に創立50周年を迎える創価大学。そのキャリア教育の大きな柱となっているのが、先輩が後輩を支援するピアサポートだ。先輩が後輩のために力を尽くし、それに触発された後輩が、キャリア意識を醸成し、成長していくその仕組みの核となっているものは何なのか。キャリアセンター長と卒業生・在學生に話を聞いた。

取材・文／伊藤敬太郎 撮影／坂本ひろし

学生生活のすべてが キャリアデザイン

創価大学は、2010年に発表したグランドデザインに基づき、積極的に新学部の新設や学部再編を進めてきた。現在は文理幅広い8学部10学科体制となっている(図1)。

グローバル化推進にも力を入れており、2014年には、文部科学省のスー

パーグローバル大学創成支援(タイプB)に採択された。その取り組みは2018年2月の中間評価で最高評価「S」を受けている。

そして、キャリア教育に関しても独自性の高い取り組みを推進し、着実に成果を上げてきた。その基本的な考え方について、キャリアセンター長の小林孝次教授はこう語る。

「本学では、単に就職をゴールとはせず、人間教育、世界平和といった建学の精神のもと、自他共の幸福を追求する、真に豊かな人生を生き抜く力を養うことを目的としてキャリア教育に取り組んでいます。ですから、学業を中心とした学生生活のすべてがキャリアデザインだと考えています」

このような考え方に基づいて、キャリアセンターでは、学生一人ひとりが、自分の未来を(Self-Future)、自分の力で切り拓く力をつけ(Self-Frontier)、自身の基盤を築く(Self-Foundation)ことを狙いとしたF3プログラムを実施。学部を横断したキャリア科目、卒業生

キャリアセンター長
経済学部
小林孝次 教授

を招いたキャリア・就職イベント、現時点での社会人基礎力(リテラシー、コンピテンシー)を測る就業力テスト、資格試験対策講座などの課外講座、キャリアセンターでの進路相談、キャリア・就職関連の刊行物などを連動させた、キャリア教育を展開している。

そして、このプログラム全体を支えているのが、CSS(キャリアサポートスタッフ)、RSS(リクルートサポートスタッフ)という、学生によるピアサポートだ(別掲コラム参照)。

毎年秋に、進路が決まった4年生の有志が自ら手を挙げ、約40人のCSS、60~80人のRSSを結成。自分自身が1~3年次に先輩から受けてきた支援を、今度は自分たちが後輩に提供す

図1 創価大学の学部・学科構成

経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
法学部	法律学科
文学部	人間学科
教育学部	教育学科 児童教育学科
国際教養学部	国際教養学科
理工学部	情報システム工学科 共生創造理工学科
看護学部	看護学科

る側に回る。

CSSが関わる「キャリアデザイン基礎」は1年生720名が、RSSが関わる「キャリアビジョンI」は3年生約1000名前後が受講する正課の授業だ。

「1年生から自分のキャリアデザインを真剣に考えれば、留学の計画も早くから立てられますし、学生生活全体を有意義に過ごすことができます。面談などを通してこの時期の1年生をサポートするのがCSS。3年生には、このようなキャリアデザインに加えて、さらに就活に関するスキル習得も必要になる。直近の経験を踏まえてそんな就活生を支援するのがRSSです。身近な先輩は気軽に話せる存在ですし、近

CSS

(キャリアサポートスタッフ)

進路が決定した4年生が結成する、1年生のキャリアデザインを支援するグループ。CSSのメンバーは「キャリアデザイン基礎」(1年次秋学期)の授業サポート、1年生の面談、1、2年生対象のイベントの運営などに主体的に関わる。

い将来の自分をイメージさせるロールモデルでもある。後輩を触発する効果は非常に高いですね。同時に、支援する側のCSS、RSSもこの経験を通して成長していきます」

RSS

(リクルートサポートスタッフ)

進路が決定した4年生が結成する、3年生の就活を支援するグループ。RSSのメンバーは「キャリアビジョンI」(3年次秋学期)の授業サポート、就活生への面談、卒業生を招いた就活イベントの運営などに主体的に関わる。

先輩たちは定期的な面談だけでなく、後輩からの相談があれば随時相談に応じる。面談用のノートには、担当する後輩に関する情報がビッシリ書き込まれ、後輩が悩んでいるときには

先輩から後輩へと受け継がれ

卒業生



文学部OG
川端公子さん

CSS11期。2015年3月卒業。株式会社ベネッセコーポレーションに就職し、現在入社4年目。在学中はケニアへの研修、デンマークへの交換留学などを経験。

後輩ががんばっている姿を見ると自分もがんばれる

卒業までの半年間CSSとして活動しました。その原点にあるのが、卒業生が支援してくれる就活宿所に就活生として参加した経験です。先輩たちは仕事終わりに来て、夜遅くまでエントリーシートの添削や面接対策を熱心にやってくださって。私たち以上に私たちを信じて全力でぶつかってきてくれるその姿に感動して、「私もこうなりたい!」と思ったんです。

CSSとして意識したのは、自分の尺度で話さ

ないこと、一人ひとりに寄り添って一緒に考えることです。悩んでいる後輩には授業で行う面談以外にも頻繁に会って話を聞きました。就職が決まったある後輩に「キミちゃん(川端さん)がいたから私は自分の人生を諦めずに済んだ」と言ってもらったときには本当に嬉しかったですね。後輩のがんばっている姿を見ると私自身もがんばれる。支援しているようで私も支援されていたんだと思います。

CSSとして
三好さんを
サポート

1年生



文学部1年
塚本健一さん

2017年4月入学。取材時、キャリアデザイン基礎を履修中。当面の目標は2年次のロシア留学。卒業後はロシアの大学院への進学を希望している。

先輩との対話でモチベーションが高まる!

秋学期から「キャリアデザイン基礎」を履修していて、私の担当のCSSは三好さんです。

三好さんとの面談ではお互いの近況報告から始まって、ロシアへの留学やロシアの大学院への進学、そこに向けてすべきこと、学部での勉強の進捗状況や中間テストの結果報告などいろいろな話をします。三好さんと対話するとモチベーションが上がるんです。「ツカモン(塚本さん)にはやり遂げる力がある」と言っても

らえたときはすごく自信もつきました。

また、私は寮生活をしていて、寮のユニットの先輩にも日々お世話になっています。創価大学は先輩と後輩とのつながりがいろいろな面で強くて、先輩たちがフレンドリーかつ真摯に後輩をサポートしてくれる姿は、私にとっての目標にもなっていますね。今後、様々なかたちで、自分も後輩たちをサポートしていく存在になりたいと考えています。

図2 創価大学のキャリア教育とCSS、RSSのサポート

	1年次	2年次	3年次	4年次
	夢を具現化 (進路の方向性を仮決定)	進路の方向性を 本決定 (情報収集・就業体験)	夢の実現に向けて 準備	選考試験等を受けて 進路決定
キャリア 科目	キャリアデザイン基礎 ※やりたい自分を考える	インターンシップ など	キャリアビジョンI ※就職活動に 必要な知識を学ぶ	キャリアビジョンII ※卒業後のキャリアデザイン など
イベント	Design Your Dreams ※卒業生との懇親会 など	Bridge to the Future ※1day就業体験 など	就活決起大会 就活フェスタ	学内企業説明会 など

■ CSSがサポートしている授業や主催しているイベント ■ RSSがサポートしている授業や主催しているイベント

数時間にわたって面談することも。なお、CSSもRSSも無報酬で、卒業単位とも関係ない。彼ら彼女らのこの熱意はどこから生まれるのか。

「自分自身が下級生のときに、『どうし

てそこまで』というくらい先輩たちが後輩のために尽くしてくれる姿を目の当たりにしているからです。本学では、この制度に限らず、先輩・後輩の間の強いつながりが伝統的に培われてきまし

た。先輩たちはみんな、後輩を自分以上の人材にしたいという思いを共通してもっています」

前出の小林教授の言葉にもあるように、同大学のキャリア教育は、決して就職をゴールとしたものではない。しかし、一連の取り組みの成果は、結果として数字にも表れている。リーマンショックの影響で2009年度の進路決定率は73.0%に悪化したのが、2017年度は90.2%にまで改善した。

もちろん、進路決定率だけではない、人間的成長という成果もそこにはある。ピアサポートによって生まれる成長の連鎖を証明する卒業生・在学生の言葉を以下に紹介する。

られるピアサポートのサイクル /

後輩自身の気づきを隣で支援するのがRSS

大学時代には、CSS、RSSの先輩たちから「道下君の夢は何?」「それはどうして?」と問われ続けることで、自分自身やキャリア、人生について掘り下げて考える習慣が身に付きました。なかでも究極の問いは「あなたが提供したい価値は何?」。この問いに対して考え抜いた答えが自分の軸になり、進路の決定にも、結果として就活の面接などでも役立ちました。

そんな経験を後輩にも伝えたいと、内定後に

はRSSに手を挙げました。授業で担当したのは10人ほどで、イベントで出会った後輩や寮の後輩も含めると関わったのは20人以上です。RSSの役割は教えることではなく、聞いて、引き出して、たくさん認めてあげて、後輩自身が自分の強みややりたいことに気づく過程に寄り添うこと。後輩が「来てよかった」と思える面談にするよう、一人ひとりの進捗状況を意識して準備したことを思い出します。



卒業生

経済学部OB
道下郷大さん

RSS14期。2018年3月卒業。ANA成田エアポートサービス株式会社に就職。在学中は、大学祭の実行委員長、カナダ・アメリカでのインターンシップなどを経験。

● RSSとして
三好さんをサポート

先輩から受けた恩を後輩に返していきたい

私は4年次に留学したので、就活を始めるのが遅く、不安が大きかったです。そんなとき、RSSの先輩に精神面、スキル面でサポートしてもらえたからこそ、就活を乗り越えることができたんだと思います。留学の目的を掘り下げて考え、留学先を決めるときも、1年次のCSSの先輩との対話がベースにありました。そのように多くの先輩たちから受けてきた恩を、今度は自分が後輩たちに返していきたいという思いから、

CSSに参加しました。

私たちCSSはコーチングのプロではないですが、後輩にとってはより身近な存在。だからこそ気づいてあげられることもありますし、お互いに触発し合い、一緒に成長していく関係なんです。もちろん「後輩のために」という思いが一番ですが、結果として、リーダーシップやコミュニケーション力などの面で自分自身も成長していることを実感しています。



4年生

経済学部4年
三好可愛さん

CSS15期。株式会社ファーストリテイリングに内定。4年次の6月～2月にマレーシアとオーストラリアに留学。就職活動を終えた2017年の9月からCSSに。

● CSSとして
塚本さんを
サポート